

生産現場強化のための研究開発

【2, 486 (1, 877) 百万円】

対策のポイント

収益力向上につながる高品質で強みのある農林水産物の生産拡大等に向けて、生産現場のニーズに直結した革新的な新技術の開発を推進します。

<背景/課題>

- ・「農林水産業・地域の活力創造プラン」に基づき、農林水産業の成長産業化による、農業・農村の所得倍増を目指すとともに、食料自給率・自給力の維持向上を図ることが最重要課題となっています。
- ・このため、収益力の向上や生産システムの革新、気候変動への対応など、生産現場を強化するための技術革新が求められており、重点的に取り組むべき研究を取りまとめた「研究戦略」（平成26年12月）に基づき、研究開発を推進します。

政策目標

生産現場を強化する収益力向上技術等の開発

<主な内容>

1. 収益力向上のための研究開発

収量の大幅増大や付加価値の高い強みのある農畜産物の生産のための技術、飼料や農業資材のコスト低減のための技術など、農業の収益力向上に向けた技術を開発します。

2. 生産システム革新のための研究開発

計画的な後継牛の確保や悪臭問題の解決など持続的で生産性の高い畜産経営の実現に向けた技術など、生産・流通システムの革新に向けた技術を開発します。

3. 温暖化適応・異常気象対応のための研究開発

温暖化の将来予測に基づく品種育成・生産安定技術等、豪雨などの異常気象による被害を回避・軽減する技術を開発します。

4. 森林資源を最適に利用するための技術開発

森林資源を活用した新たな需要創出のための高級菌根性きのこ栽培技術、森林再生・森林吸収源対策のための高速育種技術、簡易な炭素蓄積量測定技術等を開発します。

5. 持続可能な養殖・漁業生産技術の開発

赤潮等の早期発生予測技術、沿岸資源の自律的回復技術の開発と合わせて、国内需要の大きいマグロ・ウナギ最新型養殖技術及びノリの効率的育種技術を開発します。

委託費
委託先：民間団体等

[お問い合わせ先：農林水産技術会議事務局研究推進課

(03-3502-7438)]

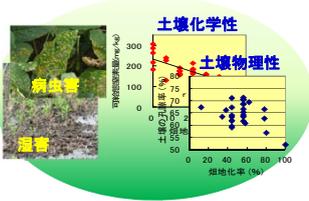
生産現場強化のための研究開発

「農林水産業・地域の活力創造プラン」で掲げられた農業・農村の所得倍増を実現するためには、農林水産業の収益力の向上、生産システムの革新を図るとともに、気候変動等による影響を回避・軽減することにより、生産現場の強化を図ることが重要です。また、森林資源の最適利用や持続可能な水産業の実現が重要です。

研究戦略（平成26年12月）に基づき研究を推進

研究戦略についてはこちらをご覧ください → <http://www.s.affrc.go.jp/docs/project/senryaku/index.htm>

■収益性の高い土地利用型農業経営の確立



水田輪作における多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発

1年目				2年目					
2	4	6	10	12	2	4	6	10	12
水稲					タマネギ				大豆
					水稲				キャベツ

水田複合経営における収益性の高い新作物型の開発に向けた研究

■畜産・酪農の競争力強化



性別別精液等の高品質化を通じた受胎率向上技術の開発



堆肥攪拌作業時に発生する悪臭の拡散防止技術の開発

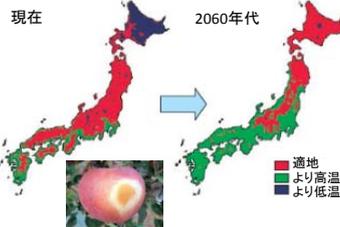
収益力の向上のための研究開発
生産システム革新のための研究開発
温暖化適応・異常気象対応のための研究開発

■農業資材のコスト低減・安定確保



栄養収量の高い国産飼料の低コスト生産・利用技術の開発
飼料用米の収量を高位安定化させる技術の開発

■温暖化による生産不安定化の回避・軽減



中長期的な温暖化予測に基づく被害回避・軽減技術の開発

■異常気象による被害の軽減



豪雨に対応できる圃場排水、貯留機能の強化

■強みのある農産物づくりの促進



花きの日持ち性向上技術等の開発

森林資源を最適に利用するための技術開発

- 森林資源を活用した新たな需要創出
- 森林再生・森林吸収源対策



マツタケ、トリュフの人工栽培技術を開発



優れた林業種苗を従来の1/3の期間で作出する技術を開発

持続可能な養殖・漁業生産技術の開発

- 天然資源に依存しない持続的な養殖の実現
- 漁業被害の回避・軽減、生息環境の修復
- 高温環境下での安定生産



ニホンウナギの幼魚（シラスウナギ）



クロマグロの稚魚

農業・農村の所得倍増が実現可能な力強い生産現場の構築